

# 東京都現代俳句協会会報

発行人 青木 栄子  
発行所 東京都現代俳句協会  
〒116-0014 荒川区東日暮里3-34-10  
山本 敏倅  
TEL-FAX 03-3801-1656

## 記憶と記録

東京都区幹事長 山本 敏倅

来る五月二十六日都区協は創立三十五周年記念俳句大会を迎える。現在、その行事の準備が会員総意のもとに進行中である。一口に三十五周年と言っても、その来し方は想像を絶するものがある。今はそれを振り返ることより、その経験を生かし、一歩でも俳句の次を求めて前進すべきかと。この三十五周年という節目は、さらなる飛躍のための大いなる突破口にすべきであろう。

俳句は世界的にも類を見ない最短の詩である。その特徴として、まずは記憶に残らなければならぬ。多くの人の記憶に遺つてこそ、一句としての存在価値が生まれる。しかし記憶は時間と共に風化する。どうしても齢を重ね

ることにより生じる、忘れるという現象は防ぎようがない。そこで記録が不可欠になる。昨年、現代俳句協会で七十周年記念に出版された「昭和俳句作品年表(戦前・戦中篇・戦後篇)」などはその顕著な例として上げられる。都区協も三十五周年を記念し、合同句集(百八十七名参加)を上梓する。「記憶と記録」この両輪が揃つてこそ、俳句の存在は永遠に不滅となるのでは。また俳句はその短さゆえ、詠み手と読み手、すなわち作り手と鑑賞者双方の関渉により一句はその輝きを増す。どんなに秀逸な作品でも、それを鑑賞する強力な読み手がいない事には、一句の価値は半減する。逆もまた真である。同様に一人の俳人の中にもその両方が存在しなければならぬ。その詠み手と読み手両者の「記憶と記録」に遺ることこそ、この記念行事の折りに問われるべきであろう。

東京都現代俳句協会

## 創立三十五周年記念俳句大会

期 日 平成30年5月26日(土)午後2時より

場 所 文京シビックセンター26階スカイホール

☎03-5390-1122

記念講演 講演 現代俳句協会 特別顧問

「岳」主宰 宮坂静生先生

演題 (未定)

講 評 長峰竹芳常任顧問ほか

東京都現代俳句協会

創立三十五周年記念事業基金

募集のお願い

平成三十年五月二十六日(土)に記念俳句大会・祝賀大会を開催いたします。つきましては左記の通り基金を募集することになりましたので、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

一口 一、〇〇〇円(何口でも結構です)

記念大会実行委員長 松澤 雅世

振込番号

00110・5・539619

加入者名 東京都現代俳句協会

\*同封の振替用紙をご使用願います。

郵便振替払込受領証にて領収書に代えさせて頂きます。

基金担当 松澤 雅世

創立三十五周年記念事業基金寄付者芳名

- 三十口 大平 星雲 松澤 雅世 明 長峰 竹芳
- 二十口 松田 貞男 鈴木 明
- 渡邊 嘉幸
- 十口 櫻木美保子 小高 沙羅 吉田 健治
- 阿部 晶子 佐怒賀正美 石山 正子 遊佐 光子
- 渡邊きさ子 石井 英彦 中本 勝美 大坪 重治
- 大牧 広 二村 博三 洪川 京子 青木 栄子
- 二村 博三 山中 正巳 齋藤 藍 石垣 久良
- 布施 徳子 林中 龍二 赤木日出子
- 対馬 康子 柳瀬 亜湖 山本 敏倅 鈴木 明
- 伊藤 三子 赤城日出子 圓山ふさこ 橋本 道子
- 中村 里子 小檜山繁子 小檜山繁子 栗原 節子
- 二村 博三 山崎 百花 布施 徳子
- 五口 宇佐美ちろ子 北村真貴子 長倉川はるか 小松山繁子
- 松本 秀紀 関根 誠子 吉浜 青湖 圓山ふさこ
- 高橋 透水 行川 行人 篠 貴美子 當山 孝道
- 上野 貴子 西本 明未 大橋 愛子 加藤 光樹
- 石口りんご 菊地 雅子 赤澤 敬子 角田 晴俊
- 栗原 節子 大山実知子 吉田 孝子 石綿 久子
- 千明 素子 白石みずき 宮崎 敦子 川名つぎお
- 山口 素子 佐藤 洋子 松隈しのの 北村真喜子
- 千明 紀子 芦川 りさ 富田 花舟 小野貴美子
- 山明 素子 芦川 りさ 野明とし子 小林 貴子
- 柳瀬 亜湖 石垣 久良 関根 誠子 広田 輝子
- 佐々木いつき 高橋 透水 小檜山繁子 山口 紀子
- 佐久間梨江 大森 和子 小檜山繁子 平田 恒子
- 三〇口 鈴木 光子 好井 由江 鈴木登代子 池田 澄子
- 桑田 真琴 河原 叔子 鈴木 淳一 宮原 光女
- 倉持留美子 加藤瑠璃子 速水 禰子 遠藤 久子
- 栗田希代子 平林 孝子 高原 信子 相沢 幹代
- 阿部 周二 欽守 裕子 上村ツネ子 鷲 ケイジ
- 古谷あやを 三輪 初子 伊藤 淳子 山 和子
- 関 文子 石川 貞夫 穴澤 篤子 山口 則江
- 永島 靖子 小平 湖 江原 玲子 白岩 綱子
- 畑乃 武子 吉田 克子 高島正比古 伊藤三三子
- 岡野 順子 中村 三郎 栗原かつ代 諏訪部典子
- 岸本 陽子 壁谷 瑠宇 平島 俊子 坂藤 朋夫
- 壁谷 瑠宇 桜井 了子 内藤みのる 竹内 杉菜
- 石川 貞夫 小堤 有希 有馬 英子 伊藤 公子
- 平田 恒子 石川こぎく 依光 綾子 上野 貴子
- 西前 千恵 石川登志子 福田 葉子 尾形 郁子
- 平島 俊子 磯部 薫子 中道 秀和 すぎき小柳子
- 内藤みのる 長谷川栄子 寺町志津子 小林 幹彦
- 川西茜舟女 醍醐 鉄哉 いまいれ高夫 大橋 愛子
- 宮川 夏 古谷あやを 渡部 愛子 五十嵐迪子
- 倉越 美子 棚橋 麗末 北村真喜子 讚岐 幸江
- 倉本 岬 菊池ひろこ 菱沼多美子 長尾 幸子 渡部 愛子
- 進藤 清能 伴場とく子 利光知恵子 石堂つね子
- 中内 火星 菊池ひろこ 江原 玲子 伊藤 東明
- 鈴木登代子 関戸 信治 澤田俊文子 土田 京子
- 大里 卓司 進藤 清 古川 塔子 山口 昭義
- まるきみさ 加藤千恵子
- 大山 夏子 山地春眠子 渥美人和子 田中いすず
- 二〇口 大高 宏允 高山 洋子 瀬川 紅司 平北ハジム
- 仲澤 輝子 鷲 悦子 吉田 慶子 中野 英子
- 朝賀みどり 堀 梢 森銅 昭夫 山地春眠子
- 中村 誓子 栗林 幹子 桑原 泰子

※氏名の重複は複数の寄付によるため

平成三十年度 定時総会 三月十一日(土)

於 文京シビックセンター26階・スカイホール

三寒四温の温の日で天候にも恵まれ六十四名の参加。近隣三地区より東京多摩地区現代俳句協会稲吉豊事務局長、神奈川県現代俳句協会鈴木和代副会長、千葉県現代俳句協会高橋宗史事務局長の来賓を賜り、定刻の二時に栗原節子副幹事長の司会により開始された。

開会の言葉は松井国典副会長。「都区協は初代会長から現松澤雅世会長まで、会の目的は人材の発掘と育成である。さらに豊かな会にするために総会がある」と挨拶。続いて松澤会長、総会の出席への御礼と近隣三地区の来賓の方々へ御礼述べられた。「今回は役員改正、新しい三年のスタートになる。さらに五月二十六日(土)には都区協三十五周年の記念俳句大会・祝賀会開催への参加と協力をお願いする」と挨拶。長峰竹芳常任顧問の挨拶と続いた。近隣三地区の来賓の御祝いの言葉を戴いた。

続いて司会者一任で議長を近田吉幸、副議長を江原玲子の両氏を選出して議事へ。

第一号議案・平成二十九年事業報告

総務部長 山本敏偉

第二号議案・平成二十九年収支報告

会計部長 石垣久良

会計監査報告

監査役 醍醐鉄哉・田付賢一

第三号議案・平成三十年事業計画案

総務部長 山本敏偉

第四号議案・平成三十年度収支予算案

会計部長 石垣久良

第五号議案・役員改正について

幹事長 青木栄子

第六号議案・創立三十五年記念事業について

幹事長 青木栄子

以上各議案は満場の拍手を以て承認された。

山中正己副会長の閉会の言葉で閉会。

休憩の後、一句持寄り句会、司会は今野龍二広報部長。選句の後、田付賢一現俳協広報部長の講話「月刊『現代俳句』について」。二期

六年を振り返っての苦勞、逸話等を披露した。

都区現代俳句協会 成30年度総会



広田輝子、櫻木美保子の両氏の披講の後、特別選者の特選句に短冊の授与、さらに丁寧な選評を戴いた。

成績発表は票は小高沙羅事業部長から、一位から三十位まで豪華賞品が授与された。

六時から山口紀子組織部長の司会で懇親会、佐怒賀正美副会長の開会の挨拶、中村和弘顧問の乾杯で暫しの歓談。四十四名の参加者の懇親を深めたところで、恒例のピング大会。長谷川はるか企画部長、中内火星幹事、上野貴子幹事、高橋透水幹事の絶妙の進行で懇親会を盛り上げた。松田貞男副幹事長の閉会の挨拶でお開きとなった。

定時総会 一句持寄句会

特別選者選 参加作品及び成績は次の通り

《選者特選句》(頭の番号は入選順位)

松澤 雅世 特選・鈴木 和代 特選

タイゴ鉄哉 特選・江原 玲子 特選

1 春光をちぎって曲げて鉛細工 歙守 裕子

稲吉 豊 特選

6 親指は兜太のすがた春北風 松田ひろむ

高橋 宗史 特選

赤道は魂帯び虹に兜太呼ぶ 佐怒賀正美

松井 国史 特選

20 六時には少し間のある春シヨール 稲吉 豊

佐怒賀正美 特選

親に見放されるぐらい花吹雪 中内 火星

山中 正己 特選

人生は記憶の欠片土筆生え 長峰 竹芳

青木 栄子 特選

13 梅散つて鬨いつづく兜太の書 栗原かつ代

長峰 竹芳 特選

16 青空を知らぬ風船突いており 櫻木美保子

佐々木いつき特選

9 簾本も暮も流れた弥生かな 小林 和子

松田ひろむ 特選

14 やわらかく着て三月を踊ろうよ 今野 龍二

田付 賢一 特選

微分積分前頭葉に桃満開 江原 玲子

近田 吉幸 特選

3 眼差はいつも被災地燕来る 上野 英一

《参加作品》(高忌三十句・以下順不同)

1 春光をちぎって曲げて鉛細工 歙守 裕子

2 青き踏む今日の行きたい所まで 小高 沙羅

3 眼差はいつも被災地燕来る 上野 英一

4 にんげんの行間を抜け木の芽風 山本 敏倅

5 本能の一番底に春の土 山戸 則江

6 親指は兜太のすがた春北風 松田ひろむ

7 戦争も戦後も兜太鳥帰る 青木 栄子

8 梅咲いて青鮫海に帰る時 磯部 薫子

9 簾本も暮も流れた弥生かな 小林 和子

10 囀やことばの画廊を始めます 土屋 秀夫

11 蛇穴を出て一匹は臆曲がり 松澤 雅世

12 指切りをした筈さくら咲いた筈 塚越 美子

13 梅散つて鬨いつづく兜太の書 栗原かつ代

14 やわらかく着て三月を踊ろうよ 今野 龍二

15 木の芽吹く今日という日は今日かぎり 白石みずき

16 青空を知らぬ風船突いており 櫻木美保子

17 しみじみと生きしみじみと桜咲く 宮 沢子

18 どこまでも歩ける予感木の芽風 山口 紀子

19 異次元に迷い込みそう月朧 水落 蘭女

20 六時には少し間のある春シヨール 稲吉 豊

21 春雷や兜太野太き反戦歌 宮川 夏

22 大川へ捧ぐ鎮魂空襲忌 山口 昭義

23 リクルートスーツの弾く春の雨 長谷川はるか

24 新しい靴買おうかな四月来る 山中 正己

25 三遷と言うも蛙の子は蛙 石口りんご

26 木の花と噴火地球は生きている 大橋 愛子

27 再診は陰性となり風光る 高橋 透水

28 仕舞湯はいつも母なり種浸す 石口 榮

29 初虹や人工レンズで結ぶ像 次山 和子

30 命日の遠き高きを鳥帰る 赤澤 敬子

秩父路や木霊す兜太春たてり 二村 博三

ボラナイアの小鬼泣き出す節分会 大山実知子

半島の水温みけりオリンピック 松本 秀紀

春昼の時間を潰すブツクカフェ 飛永百合子

この雨は私の涙やぶつばき 岡崎 久子

紅梅の陽に映えて今散り初めぬ 小松 雅子

戦すな白寿兜太や春浅し 今井まき子

微分積分前頭葉に桃満開 江原 玲子

三界へ三陸若布戻したり 松井 国史

絵のような蛙合戦囃さうか 古川 塔子

風花の街大きくて深い穴 栗原 節子

雪女郎あまた残して兜太逝く 今村たかし

菜種東風この世のちの世七年目  
慣れ過ぎた機器の故障や春の雷  
赤道は魂帯び虹に兜大呼ぶ

春風や稚児の肌着柔かし

逆境につながるどこも花菜かな

平和とは園児に向ける春の笑み

動線は浪江の底初つばめ

菜の海に夷陽鉄道泳ぎけり

虫穴を出る塞がれし着地点

一雨に触れて順調木の芽立つ

学問の不偏不党をこぼし空

三月のツナミ万国共通語

真つ向に燃ゆる山あり三月来

大志抱き燃やす命へ木の芽吹く

雪よもつすこしやさしくなれないか

親に見放されるぐらいい花吹雪

戦争の記憶今なお梅咲いて

兜太逝く舫ふ戦後よ涅槃西風

青鯨の哭く白梅の点す道

菜の花を和え物にしてハイボール

人生は記憶の欠片土筆生え

下萌に旗幟鮮明にしたるかな

漣に広がってゆく早春譜

(小高 沙羅・記)

### 東京都現代俳句協会役員平成30年度

会長 松澤 雅世  
副会長 松井 国央・佐怒賀正美

幹事長 青木 栄子(新)

副幹事長 山本 敏伸(新)

総務部長 栗原 節子・松田 貞勇・小高 沙羅(新)

会計部長 今野 龍二(新)

広報部長 石垣 久良

事業部長 長谷川はるか(新)

企画部長 栗原かつ代(新)

組織部長 宮川 夏新

研修部長 今村たかし(新)

幹事 赤澤 敬子・五十嵐秀山・磯部 薫子

\*は新任 大山実知子・櫻木美保子・白石みずき

鈴木 光子・瀬藤 芳郎・高橋 透水

近田 吉幸・長尾 幸子・西本 明未

廣田 輝子・山崎 百花・山戸 則江

山口 紀子(新)

監査 与 山口 紀子(新)

特別顧問 長峰 竹芳(新)

常任顧問 山中 正己(新)

顧問 加藤 光樹・加藤瑠璃子・中村 和弘

顧問 布施 徳子・松田ひろむ・佐々木つぎ

### 春の吟行&通信句会のご案内

次の要領で実施します。奮ってご参加を。

実施日 平成三十年六月五日(火)

吟行場所 東京駅周辺(受付後、自由吟行)

《見どころ》

東京駅舎煉瓦造、東京駅前広場、御幸通り、

皇居前広場、入園は無料。丸ビル。JPTaW

1 学術文化総合ミュージアム(KITTE

ビル2・3F)入場無料。三菱一号館美術館。

丸の内通り。明治生命館(重要文化財)。

集 合 JR東京駅丸の内北口改札前

午前十時

参加申込 事務局宛 葉書・FAX・Eメール。

申込締切 参加者住所・氏名・電話番号明記

費用 千円(通信費・賞品代)

投 入 六月四日(月)

出句締切 六月十二日(火)必着

選 句 事務局宛 葉書・FAX・Eメール。

事務局長 後日参加者に作品集を送付し、選句

者選にたが、入賞者を決定します。

都区協会報に結果を発表し、入賞

者に賞品を送付します。

企画部 栗原かつ代

167-0052 杉並区南荻窪一―一九一―二

Tel/Fax 03-3333-2306

Eメール hiruizame@gmail.com

# Bブック研修吟行会

平成三十年二月二十四日

於：大田区立池上梅園

数日前まで残雪の心配をしていたが、久し振りに晴れあがり、暖かい吟行日和となった。

池上梅園は池上本門寺の西にあり丘陵斜面を利用した静かな梅園で、紅梅を中心に二百二十本、白梅百五十本を数える。三十余種のそれぞれに名札が付いている。「緑萼枝垂。思いのまま。藤牡丹枝垂。座論梅。八重揚羽」が梅園おすすめとか。区花が梅であることから毎年綺麗に整備されている。

句会場の池上会館へは梅園から徒歩二十分。出句締切十二時半、開会十三時の予定通りに始まる。開会に先立ち金子兜太、長久保通繪の両氏に黙祷が捧げられた。

講話は松田貞男副幹事長による「人生雑感」山梨県の身延でうまれ、母親が病弱でおぼさんに育てられられたと、淡々と話し始めた。身延山の僧侶に絵を誉められ、団扇に絵を描いては店に卸していたと言う。人生の様々の場面で身延山の僧侶に物心両面で助けられて

現在に至るまで日蓮宗の教えに頼って充実した生活を送っていると講話を頂いた。

今回の参加者は五十六名と多くの皆様に来て頂いた、懇親会も二十六名の参加で春の日を楽しく過ごすことが出来た。

## 《特別選者・特選句》

渡邊 嘉幸 顧問

枝垂れ梅ひらかな散らす余白かな 北迫 正男

山中 正己 副会長

白梅や呼気やわらかく近寄りぬ 青木 栄子

栗原 節子 副幹事長

見上げたる梅おだやかな空がある 山口 紀子

山本 敏倅 総務部長

枝垂れ梅ひらかな散らす余白かな 北迫 正男

今野 龍二 広報部長

青鮫のまだ見つかからず梅の花 今村たかし

小高 沙羅 事業部長

追憶の兜太は風に梅真白 高橋 透水

長谷川はるか 企画部長

青鮫も人も来ている梅日和 今野 龍二

山口 紀子 組織部長

音まるくなるきさらぎの水の際 栗原 節子

## 《参加作品》(高点順)

1土踏まずだけがすこやか梅みころ 白石みずき

2 梅の香や秩父音頭が耳底に 江原 玲子

3 白梅の一樹ふわりと通繪さん 栗原かつ代

4 乱筆の句帳の余白梅香る 小林 和子

5 青鮫も人も来ている梅日和 今野 龍二

6 何もかも過去形になる座論梅 小高 沙羅

7 白梅のどくに触れても兜太かな 青木 栄子

8 年をとる途中がたのし紅い梅 栗原 節子

9 白梅に佇ち耳たぶの湿りかな 門野ミキ子

10 枝垂れ梅ひらかな散らす余白かな 北迫 正男

11 梅ふふむ空に切取り線のあり 長谷川はるか

12 振り向けば兜太・楸邨座論梅 平林 孝子

13 生きむかな古木の梅に花二輪 古谷あやを

14 逆光の梅を見ているにぎり飯 桐山 芽ぐ

15 目の前の梅と五感で対峙する ダイゴ鉄哉

16 梅六分人には見せぬ恋みくじ 山中 正己

17 純白は胸痛む色二月逝く 菅沼 葉二

18 白梅やいまあなたただけみえている 五十嵐秀山

19 裂幹に闇を埋めて臥竜梅 鈴木 光子

20 雪吊の裾を覗き見していたり 小湊こぎく

21 松吊りの手持ち無沙汰や二月逝く 小林チエ女

22 飄々と梅は咲いたり散る凡夫 松田 貞男

23 座論梅はじめは人の肩ごしに 水田千恵子

24 追憶の兜太は風に梅真白 高橋 透水

25 青鮫のまだ見つからず梅の花 今村たかし

26 ポケットの拳ほぐれるクロッカス 吉田 豊子

27 見上げたる梅おだやかな空がある 山口 紀子

28 水琴窟鳴らしてほのとかすみけり 吉田香津代

29 梅咲いて兜太と願う平和かな 石田 弥生

30 七十歳は七十歳の遊び座論梅 増田 萌子

(以下順不同)

万葉人に似て非なるかな梅日和 松澤 雅世

せせらぎの音も艶めく春の声 渡邊 嘉幸

豊艶な寒紅梅に立ち竦む 三上 孝

梅の香の縦横無尽の中にある 山本 敏倅

完璧な梅園不用の誉め言葉 赤澤 敬子

一人づつ来て全山に咲かす梅 広田 輝子

開きても食べる話や露の臺 長尾 幸子

口紅を緋色に変へて梅句会 大山実知子

知らぬまにうす味慣れし梅真白 讃岐 幸江

手に何も持たぬ一日座論梅 櫻井 了子

紅梅とは内侍の名なり町しづか 上野 英一

紅梅の枝ぶりに見る顔と顔 上野 貴子

梅咲いて玉手箱めく兜門 早瀬 恵子

見下ろせば春告草や波の泡 近田 吉幸

爪立ちて梅の香探るスニーカー 石井 誠子

梅園やぎゆうぎゆうづめの資本主義 中内 火星

梅咲いて丘陵の艶めく日和かな 宮川 夏

青空にかざす眼鏡や梅林 櫻木美保子

久々のこぼれる梅見ただ仰ぐ 村田 耕作

日常の雑事忘れる梅の香よ 出口 盈子

梅桜順番よろしく咲いてくれ 寺島 正秀

摘み取って口に入れたし八重の梅 富塚 聡子

老梅の緑青の幹父想う 伊藤 純子

膨らみが破裂すんぜん八重揚羽 山口 慶子

座論梅女人とりとめなき会話 永野 了子

白梅に喜び間もなく紅梅 前田 光江

(平林孝子・記)

### Cブロック吟行会のご案内

開催日時 平成三十年七月六日(金)

吟行場所 漱石山房記念館とその公園(自由散策)新宿区早稲田南町7番地

電話 03-3205-0209

アクセス 地下鉄東西線早稲田駅(1番出口)より徒歩10分

都営バス(白61)牛込保線センターより徒歩2分

句会場 高田馬場Fビル8階

(ドン・キホーテのあるビル)

句会場への交通 東西線早稲田駅乗車、高田馬場駅下車(5番出口)

受付開始 十二時半(十二時より入場可)

出句締切 十三時 嘯目二句

開会 十三時半

講話 現代俳句協会 山中正己先生

句会費 千円 上位三十位に賞品

懇親会場 同ビル2階・小豆島大儀 懇親会費三千円

参加申込 六月二十五日まで

問合せ申し込み先は

中内 火星 Tel/Fax 03-3440-4479

高橋 透水 Tel 090-3231-0241

鈴木 光子 Tel/Fax 03-3926-0653

中野区上鷺宮一四六

第十五回高田馬場冬句会報告

平成三十年一月九日(火)

兼題「伊勢海老」・席題「氣」

《高得点句》

晩年や鮫鱈ほどの気楽さで

木や石に佇まいあり淑気かな

氣の利かぬ男の氣遣い三ヶ日

伊勢海老に極る日本の祝い色

《参加作品》(順不同)

伊勢海老の百歳時代に負けぬ髭

伊勢海老や世代交代するものか

伊勢海老やとも歩んで妻に髭

冬日向利かん気だけで生き抜いた

元日を箸でつまんで天気はず

伊勢海老や持てはやされて赤くなる

伊勢海老の見る夢を誰も知らない

伊勢海老や遊び「ころで」生きている

伊勢海老やいまましきは加齢なり

松過ぎの氣力漲る句会かな

青木 栄子

西本 明未

ダイゴ鉄哉

広田 輝子

次山 和子

江原 玲子

櫻木美保子

相沢 幹代

山本 敏倅

小高 沙羅

中内 火星

松田 貞男

白石みずき

高橋 透水

一族に気がかりの年賀状

伊勢海老は怪獣ごっこ仲間です

キリストと同じ伊勢海老の受難

遥拝で済まず伊勢海老富士筑波

寒紅や氣の良い女だけらしい

小氣味よく混み合う新宿木の芽風

芭蕉庵氣の満ち満ちて初御空

名刹へ近づくにつれ淑氣満つ

伊勢海老の髭の翁躰鏢と

伊勢海老の座る千年神の飯

伊勢海老の縁起持ち上げ浜の漁夫

鏡中の己が顔の淑気かな

赤澤 敬子

山口 紀子

鎌守 裕子

今野 龍二

栗原かつ代

棚橋 麗未

宮川 夏

上野 英一

荒井 良明

北村眞貴子

上野 貴子

小林 和子

(山口 紀子・記)

高田馬場句会「夏」の御案内

日 時 平成三十年七月三日(火)

午後一時より

会場 費 千円

兼 題 「浮いて来い・浮人形」

参加申込 宮川夏 080-3452-2577

高田馬場駅南口F1ビル8階

悼 現代俳句協会名誉会長 金子兜太先生

平成三十年二月二十日(一)逝去されました。

享年九十八歳

受贈深謝 平成29年分

福岡県・山口県・千葉県・甲信地区・

鳥取県・群馬県・鹿児島県・茨城県・

宮崎県・富山県・大分県・山形県・

東京都摩・愛媛県・北海道・新潟県・

徳島県・関 西・中北海道・広島県・

石川県・神奈川県・第二十五回福岡県

現代俳句作品集・岡山県・平成二十九

年度千葉県俳句大会作品集・沖縄県・

第十二回富山県ジュニア俳句大会作品

集・埼玉県・島根県・宮城県

編集後記

三月十一日、定時総会も無事に終わった。

新役員が決定して、私今野龍二に替わり広報

部長は中内火星氏にお願いすることになった。

在任中は多くの皆様にご協力を戴き感謝を

申し上げます。有難うございました。

今野龍二

広報部・編集室 〒121-0813

足立区竹の塚一―二八―一七

今野 龍二方

TEL・FAX〇三―三八五九―九三〇四

Eメール r.imano563@gmail.com